

## 社会科学学習指導案

3年3組 滝沢 知之

## 1. 単元名 「今にのこる昔とくらしのうつりかわり」

2. 研究主題 **社会的な見方・考え方が働く単元の開発を通して、3つの実践力を育む**

## (1) 単元について

本単元では、昔の道具やそれを使っていた頃の暮らしとその移り変わり、昔から地域に伝わる祭りや行事の様子、それらがどのように受け継がれてきたのかを具体的に考えることができるようにすることを主な学習内容としている。本学級の児童は、1学期は大阪市の様子について学び、2学期は身の回りの商店について学んできた。学習を通して、平野区にはお寺や神社が多いことや、学校の周りの商店にも昔は路面電車が走っていたこと、武士の屋敷を改築したお店があることを学んできた。区役所や地域の方々からも話を聞く機会を多く設定し、学校の近くに住んでいない児童にとっても平野区は愛着のある地域となってきている。本単元では、児童が愛着を持ち始めている地域の昔の暮らしを学習することを通して、現在の自分たちの暮らしとの共通点や相違点を見つけ、児童の価値判断を授業の中で取り入れて、昔の暮らしの良さや現在の暮らしの良さを理解していく。そして、昔の暮らしがあったからこそ、現在の暮らしがあることを実感できるようにする。地域の方々の協力を得て、実際にインタビューをする活動を多く取り入れ、「昔の人はかわいそう」といった考えにならないよう、昔の暮らしを経験していた方々と打ち合わせを重ね、昔と今の暮らしの良さを認め合いながら学習を進めていくようにしていく。さらに単元の後半では、過去と現在の道具から未来の道具を推測し、考えたアイデアを実際に未来を見据えて研究をしているプロの方に見ていただき、コメントをもらう場を設定する。これにより自分の考えたアイデアが先進的であったり、もう既に開発されている技術であったりすることに子どもたちは気づくだろう。そこから、未来の社会に対して将来性や楽しみを見出すことができると考える。

## (2) 単元の目標

- 地域の人々の移り変わりに関心を持ち、意欲的に調べることを通して地域社会のよりよい発展を考えようとしている。【意欲・関心・態度】
- 地域の人々の生活の移り変わりについて学習問題や予想、学習計画を考え表現し、人々の生活の変化や過去の生活における人々の知恵を考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。【思考・判断・表現】
- 古くから残るくらしに関わる道具の使い方やそれらを使っていたころのくらしの様子を、地域の高齢者や保護者から聞き取り調査をして具体的に調べ、時間の経過にそって整理し今昔の違いや移り変わりの様子をノートやワークシートに分かりやすくまとめることができる。【観察・技能】
- 高齢者・保護者が子どものころから現在を比べ、人々の生活の変化や過去の生活における人々の知恵や願いを理解している。【知識・理解】

未来そうぞうとの関連…未来の道具を考える活動を通して、過去から現在の変遷からの推察だけでなく、今までの枠組みにとらわれない柔軟な発想をすることで、未来そうぞう科における創造的実践力を養うことができる。

## (3) 活動構成の仮説

## ① 地域の方と交流を重ねることで、今と昔の暮らしの両方の良さを実感することができる。

昔の暮らしを経験した方と交流を何度も行うことで知識だけに偏ってしてしまわないようにする。また、交流をしていく中で、インタビューを行う方と打ち合わせを行い、昔の暮らしの中で現在の暮らしと比べて良かったことなども話してもらうようにする。これにより、昔の暮らしと現在の暮らしそれぞれの良さについて理解できるようにする。

## ② 未来の道具のアイデアをプロの方に見てもらうことで、未来の社会への楽しみを見つけることができる。

過去から現在の道具の変遷から、未来の道具を子どもたちが考え、そのアイデアに対して実際に開発をしているエンジニアの方にコメントをもらう。これにより、新しいと考えていても実はもう開発されている道具などを知ることができ、想像できないような未来でありつつも、未来の道具が実際どのようなようになるか子どもたちは楽しみを見出すことができると考える。

3. 本時の学習過程

(15時間 本時第14時)

次の単元へ「昔からつたわる行事」

4年社会科へ(地域の発展につくした人々)

教師の役割

願いや思い

他教科・単元との関わり

今と昔の暮らしは変わったところが多いけど、よりよい暮らしをしたという気持ちは同じなんだね。

昔の道具も、使いやすい場面があったら、使うことがあるんだね。

最初は、今の暮らしが良いと思っていただけど、昔の暮らしにも良いところがあるんだね。

便利にしたいという人がいたから、今の暮らしがあるんだね。

もっと未来になったら、暮らしは今よりも便利になっていそうだね。

単元のふりかえりをしよう

今までの学習を通して感じたことをまとめて、発表する。

未来の道具を考えてみよう(本時)。

学習したことを整理して、聞きたいことを事前にまとめておく。

家でインタビューを事前にしておき、授業を行う。

企業のゲストティーチャーを呼び、子どもが考えたものについてコメントをもらう。

大変と予想していました。どうして思わなかったのか逆に気になります。

そんなのを聞いてみたら、昔がいいのか今の方がいいかが全くわからなく、まあなっていました。

お父さん・お母さんは、今とほとんどかわらない生活をしていただね。

やっぱり戦後の人よりはとっても便利になっていと思いました。

よけいにぼくたちはいい時に生まれたんだと思いました。

花谷さんにインタビューしよう!

お父さんやお母さんが子どものころ

昔の道具は、手作業が多くて大変で、かわいそう。

こんなに進化していたとは、びっくりしました。

わたしたちが大人になっただろうなっているのが不便になっていないのがけっこう不安になってきた。

未来には(100年後)はぼくたちの勉強している所がのったりしているのかな。

花谷さんが子どものころはとっても大変だった

苦勞を毎日していると分かりました。全部手作業だからしんどいらうな

道具のうつりかわりを調べよう。

おじいさんやおばあさんが子どものころ

水がつめたくて、びびりました。とても大変だね。

雑巾1枚洗うのに、手の力もとても使うね。

洗濯板を使っていた人は、毎日大変ではなかった。

アドバイスを活かしてやったら、炭に火がついたよ!

下からうちわであおぐのは、とっても大変だね。

毎回火をつけるのは大変だけど、昔の人はどう感じていたか

せんたく板を使ってみよう。

もう一度七輪を使ってみよう。

未来そうぞう「平野 EXPO」

未来そうぞうと関連を図りながら授業を進める。

昔を知る方からアドバイスをもらって洗う。

新聞紙や炭の入れ方に気をつけて火をつける。

わたしは、戦争がなかったら、昔がうらやましくなりました。

戦争が終わったばかりなのに、こんなに昔がしっかりしてすごいいと思います。

昔は不便だけどちょっと体験してみたくなりました。

順番が、真反対だったので、今度は気をつけたいです。

はじめてやったときは、たくさんまちがえたことをしていたからつかないかった。

昔の人でも、角が赤くなるまでは少し時間がかかる。

昔を知る人にインタビューしよう。

昔を知る人からアドバイスをもらおう。

七輪について詳しくな人は誰か子どもに問いかけて、ゲストティーチャーに必然性を高める。

当時の様子を知る方へインタビューする。

昔は、どんなに大変だったのか聞きたい。

花谷さんは昔の事を全部知っているから、昔が不便だったことを聞きたいです。

早くインタビューしたい。

花谷さんにアドバイスをもらってリベンジしたいです。

何度か火がつかいましたが、炭は赤くならず終わってしまいました。

昔の不便さがわかりました。

七輪のうちわ、炭を用意して、火起こしをする。点火はマッチを使用する。

インタビュー内容を考えよう。

七輪を使って火を起こしてみよう。

今までの学習の流れを振り返ることができるように、廊下に掲示する。

当時生活していた人に聞きたいことを出し合う。

昔は、今のものになった道具がありました。使い方が分からないものもありました。

おじいちゃん、こういうことにくわいから、聞いてみたいです。

昔と今は、することがいっしょでも、物がちがう。

昔のくらしは不便?それとも便利?

気づきが90こも書けました。たくさん昔とかわっているんだなと思いました。

毎回の感想を座席表にして配布する。

昔のくらしの様子をみて、これからの学習計画を立てよう。

子どもの思いや願いを視覚化して、全体で学習計画を立てていく。

昔(60年前)の台所の写真を提示して気づいたことを出し合う。

平野区には大念佛寺や全興寺など、昔からある建物が多くあるね。

サンアレイ商店街には、昔、路面電車が走っていたんだね。

学校の東側には、昔ながらの街並みがあって、みんなで歩いてみたね。

平野区は昔ながらのお店もあって、見学したパン屋は武士の家を使った建物にしたんだね。

商店街は、昔は60以上もお店があったけど、今は半分になってしまったんだね。

1学期 単元

「わたしたちの大阪市」

2学期 単元

「市の人々の仕事とわたしたちのくらし」